

気仙沼と、東日本大震災の記憶

—リアス・アーク美術館 東日本大震災の記録と津波の災害史—



2011年11月24日、気仙沼市波路上瀬向、高校校舎3階図書室の状況。本は水に浸かると3倍から4倍に膨張する。本棚の中に納まった状態でこうなると、もう抜き出すことは不可能だ。スチール棚などは膨張に耐えきれず変形してしまう。絶版となった本は新たに入手することが難しい。この震災で貴重な書籍を失ってしまった者は少なくない。

2016年2月13日(土) — 3月21日(月・休)

目黒区美術館 Meguro Museum of Art, Tokyo

午前10時—午後6時(入館は午後5時30分まで) 月曜休館(但し、3月21日(月・休)は開館)

観覧無料

主催：目黒区、(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館／特別協力：リアス・アーク美術館

「東日本大震災をいかに表現するか、 地域の未来の為にどう活かしていくか」

「気仙沼と、東日本大震災の記憶 —リアス・アーク美術館 東日本大震災の記録と津波の災害史—」展を開催いたします。

宮城県気仙沼市と目黒区は、1996（平成 8）年の「目黒のさんま祭」における気仙沼市からのさんまのご提供をきっかけに交流が始まり、災害時相互援助協定の締結や中学生の自然体験ツアーなどを行なってきました。そして、2010（平成 22）年 9 月、両自治体は友好都市協定を結び、さらに絆を深めました。東日本大震災が起きたのはその半年後のことでした。

リアス・アーク美術館（気仙沼市及び南三陸町で構成する行政事務組合が運営する美術館）は、発災から 2 年が経った 2013（平成 25）年 4 月、常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」を公開しました。これは、リアス・アーク美術館の学芸係が中心となり、震災発生直後から行なった気仙沼市と南三陸町の被災状況の調査、記録活動を基にしたもので、撮影した被災現場写真約 30,000 点、収集した被災物約 250 点の中から厳選された資料群に、新聞や過去に起きた大津波に関する資料を加えた、約 500 点で構成されています。

地域のミュージアムとして、これまで現代美術の啓蒙だけでなく、歴史、民俗、生活文化を伝える資料の収集・展示にも力を入れてきたリアス・アーク美術館は、この震災以前より「津波」を地域の文化を築く文化的要素の一つと捉え、過去の津波も研究し、展覧会で取りあげてきました。東日本大震災の記録活動を、単に記録資料を残すことで終わらせるのではなく、正しく伝えていかねばならない。これまでの経緯と経験は、東日本大震災の常設展示に結実しました。「被災現場写真」には場所と状況の説明が付けられ、「被災物」は、生活の記憶の再生装置と捉え、従来の博物資料の展示手法ではなく、一種のインスタレーションとして展示されました。さらに、震災発生から 2 年のあいだに得た様々な情報や見えてきた課題を、完全にテキストのみで表現した 108 つの「キーワードパネル」が加えられ、鑑賞者にさまざまなことを伝え、考えさせる内容となっています。

本展は、「東日本大震災をいかに表現するか、地域の未来の為にどう活かしていくか」をテーマに編集された、この「東日本大震災の記録と津波の災害史」を、東京地区では初めて大規模に紹介するものです。写真パネル約 260 点と被災物（現物）11 点に、関係歴史資料を加えて展覧いたします。また、リアス・アーク美術館の特色あるもう一つの常設展示、地域の歴史・民俗資料をまとめた『方舟日記—海と山を生きるリアスな暮らし—』より、当館のスペースに合わせて生活文化資料を特別展示し、気仙沼・南三陸地域が育ててきた豊かな地域文化の紹介もあわせて行ないます。

被災地域の復興は、5 年目を迎える今もまさに進行形で行われています。震災から 2 年目の時点でまとめられた記録の展示を今日あらためて見直すことは、さまざまな物・事に想いを巡らせ、記憶を更新／形成させ、地域と世代を超えて考えていく一助となることでしょう。

【被災現場写真】



2011 年 3 月 12 日、気仙沼市松崎片浜の状況。前日の雪が嘘のように、朝から晴天となった。対岸とその付近の海上からは、もうもうと煙が上がり、湾の奥の方はかすんでしまっている。まだ何がどうなっているのか全く把握できていないが、明らかなことは沿岸が壊滅してしまったということ。「だめです、なんにもありません、壊滅です」。早朝、現場を確認した調査員が険しい表情でそう語った。

《参考写真》

（2 点とも）リアス・アーク美術館の常設展示 会場風景



※本展では、「被災物」は写真パネルでの展示となります。一部、小型の被災物に限り、現物を展示します。

本広報資料に掲載した写真図版は、
すべてリアス・アーク美術館のご提供です。

【被災現場写真】



③

2011年3月25日、気仙沼市本吉町三島(大谷地区)の状況。JR気仙沼線、大谷海岸駅構内から仙台方面に伸びる線路。左手は大谷海岸になるが、引き波によって枕木ごと持ち上げられたレールがめくれあがり、螺旋を描いてしまっている。ジェットコースターの軌道ならば疑問は感じない。しかし、これはあくまで鉄道のレールである。本線の再開については全く見通しが立っていない。



④

2011年3月13日、気仙沼市魚市場前の状況。歩行が困難な被災物の堆積があり、かつ此处そこから煙が上がっている。時折吹く風が大破した家屋のトタン板を揺らす。バララン…カラランというような、それまで聞いたことの無い音が四方八方から聞こえていた。それ以外の音と言えば、上空を飛び交うヘリコプターの風切音のみ。頭に浮かぶ言葉もない。



⑤

2011年3月29日、気仙沼市浜町(鹿折地区)の状況。津波被災現場を歩くと、目にする光景の非現実性、あまりの異常さに思考が停止してしまう。常識に裏付けられた論理的な解釈ができず、一瞬、妙に幼稚な思考が顔をのぞかせる。「巨人のいたずら…」などと感じたりするのだ。実際、そんな程度の発想しかできないほどメチャクチャな光景が果てしなく続いていた。

【被災物】写真パネル

※本展では、「被災物」は写真パネルでの展示となります。一部、小型の被災物に限り、現物を展示します。



⑥

「洗濯機 2011.11.22 気仙沼市本吉町三島」

我が家はバラバラになって、流されて、田んぼにまき散らされてしまったんです・・・
 秋口に、ぬかるみが、ようやく歩けるくらいになって、それで、気になってた洗濯機を見に行ってみました。
 やっぱりうちでした・・・洗濯槽の中に泥が積もってました。
 洗濯機って、脱衣所とか、洗面所にあるでしょ。あそこって、身もそうだけど、心も清めるっていうか・・・お風呂とかね。安心できる場所。
 いろいろきれいにするそういう場所と、洗濯機ってセットなんだよね。なのに泥が入ってて・・・見なきゃよかったなあって・・・悲しくなった。



⑦

「自動車 2011.3.23 気仙沼市川口町1丁目」

ナンバープレートで分かったんだけど、おらいの軽トラ、シャーシーだけで、まるで下駄みたいな形になってだっけよ。まず、すごいもんだね。運転席のあたりなんか、何にも残ってねえんだが、呆れでしまった。
 車って思ってるよりも、ずっとモロイのね・・・って言うか、やっぱり津波の破壊力ってすげえんだね。

本広報資料に掲載した写真図版は、すべてリアス・アーク美術館のご提供です。

関連催事

特別講演会「震災をどのように定義するべきか」
2016年2月13日(土) 14時～15時30分(予定)
講師：山内宏泰(リアス・アーク美術館 学芸係長)
会場：目黒区美術館 1階 ワークショップ室
定員：70名
聴講料：無料

※ 本展会期中に当館学芸員が展覧会や所蔵作品についておしゃべりする「大人のための美術カフェ」の開催を予定しています。
※ 詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

開催情報

タイトル	気仙沼と、東日本大震災の記憶 —リアス・アーク美術館 東日本大震災の記録と津波の災害史—
会 期	2016年2月13日(土)～3月21日(月・休)
会 場	目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36 目黒区民センター敷地内)
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
休 館 日	月曜日(ただし、3月21日(月・休)は開館)
観 覧 料	無料
主 催	目黒区、公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
特別協力	リアス・アーク美術館
交通機関	JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線＝目黒駅下車徒歩10分 東急バス＝権之助坂(目黒通り)下車徒歩5分、田道小学校入口(山手通り)下車徒歩3分

広報写真

本リリース掲載の写真画像の一部を本展広報用写真としてご提供いたします。図版の左下①～⑦が図版番号です。
ご希望の方は、申込用紙(5ページ目)の内容をご確認の上、必要事項をお書き添えいただき、FAXでお申し込みいただくか、同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

同時開催

ワークショップ「美術の基本」
本展開催中の土日に、ワークショップ「美術の基本」を開催します。
身体全部を使って美術を体験するコースや絵の構造や修復、額装について知る、多彩なコースを開催します。

※ 詳細は当館ウェブサイトでご確認ください。

本展の問い合わせ先

目黒区美術館 展覧会担当(学芸) 佐川 / 広報担当(事務) 白川
〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328
e-mail: mmatoffice@mmat.jp http://www.mmat.jp

宛先：目黒区美術館 [担当] 佐川・白川 宛て
 FAX：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の画像番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年 月 日		
御社名			
ご担当者氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 () 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ()		
発行・放送予定日	年 月 日		
ご希望の画像	図版番号 ①～⑦のご希望の図版番号をご記入ください []	使用条件等 *写真画像への文字載せは不可です。 *写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 *キャプション、クレジットは必ず明記してください。	
連絡欄			

- お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。
- 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。必ずご確認くださいませようお願いします。

【広報用画像について】

- ・画像データはメールにて送付いたします。
- ・画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・使用后、データは破棄してください。
- ・展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・画像への文字載せは不可です。
- ・画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
- ・当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

<広報用画像に関する問い合わせ先>
 目黒区美術館
 TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328
 展覧会担当(学芸)：佐川
 広報担当(事務)：白川